

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2321号 2016年08月08日（月曜日）

《 money goes to stock mart 》

5月分の統計で自らが投げた「アメリカ経済の先行き懸念」に関わる不安を、米雇用統計は7月分で完全に打ち消しました。勢いが戻ったのはアメリカの株価。SP500とNasdaqという二つの株価指数がダウ工業株30種に続く形で史上最高値（終値ベース）を更新した。特に雇用統計を受けた金曜日の上げが大きかった。この結果ドルは全般に堅調。今のアメリカ株の強さには一部で警戒論が強まっているが、実際には強気の展開。夏枯れの中で、秋に向けた方向感が掴める週になるかもしれない。

7月の雇用統計の数字は、非農業部門就業者数で「18万人前後の増加」という予想が多かった。実際に出てきた数字は25万5000人。二ヶ月連続（6月分は29万2000人に上方修正された）の「予想外の大幅増加」で、この結果先のFOMCで示されたアメリカ経済の先行きに対する「強気論」が裏書きされた。つまり5月分の統計がもたらした「弱気論」は、雇用に関しては完全に払拭されたと言える。もっとも、雇用統計以外の設備投資などの統計には弱いものもあり、米経済の先行きに関して完全に強気が支配しているという分けではない。

7月分の雇用統計は「年内利上げは十分あり得る」との見方を再確認したが、興味深かったのは株式市場の反応だ。「アメリカ経済は強い」という方に好意的に反応して、二つの代表的指数が史上最高値を付けた。長期金利の利回りが1.6%近くまで上昇したにもかかわらずだ。これは数ある株式市場への先行き悲観論にもかかわらず、マネーの向かう先としては依然として同市場が相対的優位性を保っている証拠のように筆者には見える。

もっともドルは、「アメリカの年内利上げ観測」に敏感に反応したとは言えない。「若干強くなった」という程度だ。それは依然として「9月利上げ」を見る向きは少なく、「あっても12月」との見方が多くてまだまだ先の事であることに加え、「上げ始めたら持続的に」「結果として数%の利上げ」といった過去の繰り返しは予想されず、利上げといっても「極めてインターバルの長い、時々0.25%の利上げ局面の再開」に過ぎないという事情がある。ドル・円相場も101円台のローから102円台に近いハイでの終わり程度。

むしろ、外国為替市場を大きく動かしたのはイギリスによる利下げ・量的緩和再開決定である。この決定を受けてポンドは急落し、ユーロも非ヨーロッパの通貨に対して下げた。ドル・円は円安に動いたが、全体で見ると対ポンド、対ユーロでは円高になるという展開。イングランド銀行の措置は予想されていた。前回の決定会合では情勢の落ち着きを待って

緩和措置を見送っていただけに、「今回はあるだろう」との見方が強かった。キャメロンからメイ首相へのバトンタッチも先ずは順調に行っている今が、今後も続くかも知れない金融緩和措置の第一弾を発動するには適切と判断したのだろう。実際にイギリスのEU離脱に関連したイングランド銀行の金融緩和措置は、今回のそれが「第一弾に過ぎない」との見方が圧倒的だ。

英国民による離脱決断投票から一ヶ月余、イギリス経済の先行きには不安材料が多くなっている。イギリスが今後どのような形でEUとの関係を樹立していくのかは、EUへの離脱通告さえしてない現段階では見えない。故に企業もイギリスで展開している事業を対欧大陸、対EUがらみで今後どう展開するべきかを決めかねている。しかしロンドンの不動産価格には大きな下落の兆候が見られるし、ポンド安によってイギリス国民の海外旅行熱は急速に冷めているとも言われる。旅行業界では一部企業の倒産も伝えられる。この結果イングランド銀行もイギリス経済の先行き見通しを大幅に引き下げた。

カーニー総裁は今回の引き上げに続いて今後も引き下げが行われる可能性が高いことを示唆して、「速やかに行動することが不確実性を抑えることにつながる。すべての政策に拡大の余地がある。多くの委員が年内に再び、利下げに踏み切る可能性もあると考えている」と述べた。この結果、「ポンドは一段安になる」との見方が強い。一部では現在1ポンド=1.307ドル前後のポンド・ドル相場が1.25ドル前後までポンド安になるとの見方もある。ドル・円が102円前後だとするとポンド・円は127円50銭と現在の133円台から5円以上円高になる計算だ。

ドル・円でみれば円は大きな動きを止めているが、他の通貨との関係を勘案すると依然として「円高圧力」に晒されていると言える。

《 more clear direction for US election 》

一方オリンピックの影にやや隠れたが、アメリカの大統領選挙は一つ大きなコーナーを曲がったかも知れない。先週は共和党のニューヨーク州選出の下院議員であるリチャード・ハンナ議員が、11月の大統領選挙本戦では「民主党のクリントン候補に投票する」と明言した。「トランプ候補に投票するのを躊躇う。もしかしたら第三党の候補に投票するかも」という立場を表明する共和党の党関係者はこれまでも少なからずいた。しかし「クリントン候補に投票する」と明言した共和党所属の連邦議会議員はこれまでいなかった。

彼はトランプに関して単純に「unfit to serve」と述べている。具体的には民主党大会でトランプ候補を非難（イスラム教徒の全面入国禁止策に対して）したイスラム教徒のカーン夫妻（イラク戦争で息子を失ったGold Star Families）に対する攻撃を理由に挙げた。この夫妻に対するトランプの攻撃に対しては、マケイン共和党上院議員も激しく反発。同じ趣旨の発言をしたのはオバマ大統領その人だ。シンガポールの首相を伴った記者会見の席でトランプの最近の発言について聞かれて「enough」と一言言った後、「Donald Trump is unfit to be president」と述べた後に、「why his party still supports the New York

billionaire's candidacy」と述べた。

これは強烈だ。オバマ大統領はトランプがロシアによるクリミア併合を容認するかのよ
うな発言をしていることでも彼を非難し、「彼はヨーロッパも、中東も、そしてアジアも理解
していない」と語ったし、トランプ候補が「大統領職を全うするには知識も能力も欠いてい
る」との見方は広く国民にも共有されつつある。

オバマ大統領の発言は、シンガポールのリー・シェンロン首相との会見の席で。隣で聞いて
いたリー首相もビックリだったのではないか。加えて各社が盛んにやっている世論調査
でも「クリントン支持の増加」を報告している。ABC ニュースが行った最新の世論調査結果
では、「Hillary Clinton Opens 9-Point Lead on Trump in New National Poll, Gains Among
Independents, Sanders Supporters」と出ている。民主党大会を受けた時点。クリントン
が9ポイントという最近ではもっとも大きなリードをトランプに対して持つに至ったとい
う。

当然ながらトランプ氏は女性、マイノリティの不支持率が高い。これは本戦では決定的弱
点になる。彼のこれまでの発言から見て、トランプ氏が女性やマイノリティの支持を突然得
られるというようなマジックは予想されない。

もっとも、まだまだ先の米大統領選。クリントン候補に不利な情報をアンサンジやロシア
が握っているとの見方もあるが、米大統領選挙は向かうべき方向にコーナーを曲がったよ
うな気がする。

今週の主な予定は以下の通り。

08月08日（月曜日）

6月国際収支
7月貸出・預金動向
中国7月貿易統計
7月企業倒産
7月景気ウォッチャー調査

08月09日（火曜日）

7月マネーストック
中国7月消費者物価・卸売物価
7月工作機械受注
米6月卸売売上高
インド準備銀行が政策金利を発表
休場=シンガポール

08月10日（水曜日）

6月機械受注
7月企業物価
7月末都心オフィス空室率
6月第3次産業活動指数
8日時点の給油所の石油製品価格

08月11日（木曜日）
08月12日（金曜日）

米7月財政収支
米7月輸出入物価指数
中国7月工業生産高・小売売上高
中国1～7月都市部固定資産投資
中国1～7月不動産開発投資
インド6月鉱工業生産
インド7月消費者物価
独4～6月期GDP速報値
ユーロ圏4～6月期GDP速報値
ユーロ圏6月鉱工業生産
米7月卸売物価
米7月小売売上高
米6月企業在庫
米8月ミシガン大学消費者態度指数速報値
休場=タイ

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。昼間の外出は思いとどまるような暑さの週末。自分の家、そうでなければデパートや大型ホテルなどの大型商業施設の中、そうでなければ明治神宮など太陽の光を遮ってくれる森の中。なるべくそういった場所で時間を過ごしました。だって今の日本の昼間に太陽に当たっていたら危険でしょう。

それで思ったのです。室外の猛烈な暑さと、室内のテレビが盛んにやっているオリンピック番組をちらちら見比べながら、「ちょっとちょっと……」とっていました。「この暑さの中でオリンピックやるのかな」と。だって今のブラジルは一応冬ですよ。日差しも強く、晴れの日が多いらしい。しかし冬です。しかし4年後の東京オリンピックは正に今の時期です。このクソ暑い中での、そして炎天下でのオリンピック。

そして驚くことにメインスタジアムには屋根がない。「高温注意情報 外出は避けましょう」とテレビは言う。しかしオリンピックの時期にそんなことを言えるんでしょうかね。私はずっとメインスタジアムはお金がかかっても屋根をつけよ……という意見でした。だってこの暑さじゃ、倒れる人が続出するでしょう。熱波のアフリカ出身の選手に文句を言われそう。

東京オリンピックは思い出せば体育の日が開幕式。つまり10月です。「コンパクトに……」という概念には賛成です。しかしIOCから「7～8月開催」を前提とされている以上、「暑さ対策」が絶対必要だと思う。気温が33度、34度ということは、照り返しのある場所（道路の白線の上やスタジアムの中など）は、想像を超える暑さ（60度以上）になる。本当に心配……ひょとして2020年の場合、テロより怖い東京の暑さ……とならないか。

それでは皆様に良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》